

まえがき

『ピンチ』を『チャンス』に

令和元年10月からいよいよ幼児教育が無償となりました。幼児教育に携わり、子育て真っ最中の保護者と大変近い関係にある私たちにとってこの無償化は喜ばしい反面、大きな責任を負うこととなり、身の引き締まる思いも感じるようになっております。幼児教育無償の財源は、消費税の増税によるものです。今年度5月文科省で聞いた幼児教育課長のお話によれば、8,000億円もの公費が投入されるそうです。公費が投入されればされるほど、いわゆる、『保育の質』が問われることとなります。また、別の会では、「文部科学省内でこれほど幼児教育にスポットが当たったことはない」といったことも聞きました。これらのことは、幼児教育の重要性が認められたことをあらわしていると思います。私たち幼児教育に携わる者にとっては、『チャンス』と『ピンチ』が同時に訪れたと言えるのではないのでしょうか。

さて、本園では、2014年から研究テーマを『幼児期の教育における学びを探る』とし、ここ数年は、『アクティブ・ラーニング』『幼小連携・接続』をキーワードとし研究を行ってまいりました。そして、昨年は幼児期の学びを活かした幼小接続期カリキュラムの試案を幼稚園発信で作成することを試みました。その当時は、この試案を是非多くの小学校のスタート・カリキュラム作成に活用していただき、ピカピカの1年生が幼児期の学びを活かして小学校生活のスタートをきることができるように、また、その姿を支える先生方の指導の一助になればとの夢と希望をもって作成いたしました。しかし、幼小の間にある様々な違いを互いに十分に理解し合えていないことなどもあるのでしょうか、この試案は小学校の先生方に理解していただくことが難しかったようです。そこで、1年かけて新たに見直しをし、再び提案させていただくこととなりました。今年も幼稚園発信です。正直、まだまだ、小学校の先生にご活用いただけるようなものにはなっていないと感じています。『ピンチ』の状態です。私たちが行っている保育の中で幼児が何をどのように学んでおり、それが小学校の教育にどのように繋がっていくのかということや、幼児教育が子供たちの育つ過程においてとても重要であるということを我々幼児教育に携わっている者がもっと具体的に、或いは科学的に説明できるようにならなければ小学校側の理解は進まないと感じております。そこまでできて初めて『質の高い保育をしている』ということになると考えます。本研究が、幼稚園・小学校双方にとっての『チャンス』となりますよう、多方面から忌憚のないご意見・ご指導をお願い申し上げます。

令和元年10月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園長 上田 ますみ